

鉄漿つけ道具について*

河 越 逸 行**

以前わたくしが、北陸方面で入手した江戸時代の中流階級の武家で使用されていた鉄漿つけ道具一式については、昭和48年9月に東京で開催された第13回日本歯科医学会総会の際、晴海の歯科歴史展に展示致しましたので御覧いただいた方も多いたと思います。更に本年7月、秋田地方で使用されていたと思われる鉄漿つけ道具一式と鏡台などを入手したので、スライドにより説明致したいと思ひます。

なおお歯黒については、わたくしが昭和45年10月と11月の本会例会で、特にお歯黒をつけた江戸時代人の頭蓋骨を供覧してお話し致しましたので今日は時間の関係もあり省略致しますが、いつ頃からこのような歯を染める風習が行われたかは、はっきりしないようであります。

江戸時代の風俗辞典といわれている喜多村信節の「喜遊笑覧」にも黒歯の始め定かならず…」と記されています。

しかし約1,000年前の源順著で、わが国最古の辞書といわれる「和名類聚抄」巻6 調度部の容飾具のところ「黒歯文選註云、黒歯国在東海中、其土俗以草染歯、故曰黒歯俗云波久路女、今婦人有黒歯具…」と書いてあるので、少なくともその頃すでに閉仁、之路岐毛能、万由須美などと共に、お化粧の道具のひとつとして、お歯黒道具のあったことはたしかであります。どのようにしてこのような風習が起ったかについては、各地にいろいろの伝説が語り伝えられておりますが、定説はないようであります。

そこで本題の鉄漿つけ道具であります。まず、その道具には、

- 1 耳盥（角だらい）
- 2 渡し金（耳だらいの上におき筆などをおく）
真鍮
- 3 五倍子（ふし）入れ（ふし箱）
- 4 かねわかし（鉄漿碗、かねつき）真鍮
- 5 おはぐろ壺
- 6 うがい茶碗
- 7 おはぐろ筆

イ. 普通は柳の木の前をたたいた房揚げ。

ロ. 田舎では杉の皮をそいだもの。

ハ. 鳥の羽根などで自分でつくる。

ニ. 上等なものは、3種類の羽根（鶴、雉子、おしどり）を束ねてつくり、その寸法も決っていたとゆう。

これらのものは、化粧箱（かねつけ道具入）に納められてあって、上流階級の人の使用した高級品になると、螺鈿（あがいでん）や蒔絵の豪華なものもあり、一本一本の筆にまで定紋がついていたといわれる（伊勢家女礼門口伝）

次に写真により説明してみます。

写真1 これは北陸地方で以前に入手したかねつけ道具一式で、江戸中期の中流の武家が使用していたもの。

イ. かね道具入れは、黒うるし塗で、横40

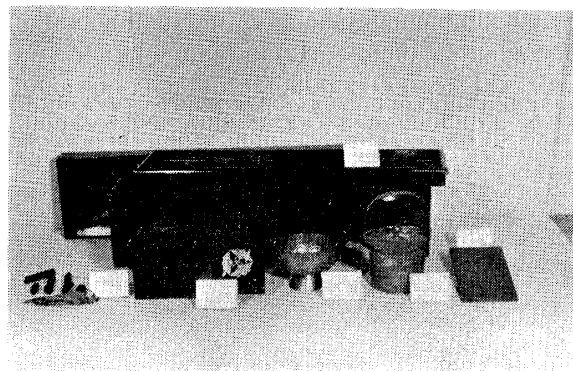


図 1

* On the Instrument of Ohaguro

** TOSHIYUKI KAWAGOE. 東京慈恵会医科大学講師

cm, 縦 12 cm, 高さ 13 cm.

- ロ. ふし入れは大小で, 黒うるし塗定紋付, 大は 8 cm 四角, 高さ 8 cm, 内箱は 7 cm 四角, 小は 6 cm 四角, 高さ 5.5 cm, 内箱は 5 cm 四角.
- ハ. かねかわしは真鍮で直径 8 cm, 高さ 6 cm.
- ニ. かねつけ碗は直径 7.7 cm, 高さ 6 cm.
- ホ. 手鏡は青銅で, 長さ 11.2 cm, 幅 6.5 cm, 模様は松に鶴に日の出.

写真 2.

- イ. 耳盥は松と藤と桜のうるしに金蒔絵文, 鍍金の金具付.
- ロ. わたしがね 真鍮で松竹梅と鶴亀の模様, 長さ 30 cm, 幅 7 cm.

写真 3.

- イ. うがい茶碗, 陶器, 直径 14 cm, 高さ 6 cm, 裏に大明成化製とあり, 明の憲宗, 成化年間(1465)のものである.
- ロ. おはぐろ壺, 越前壺で高さ 14.5 cm,

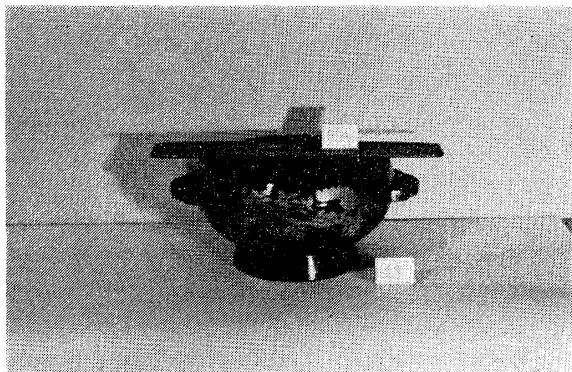


図 2

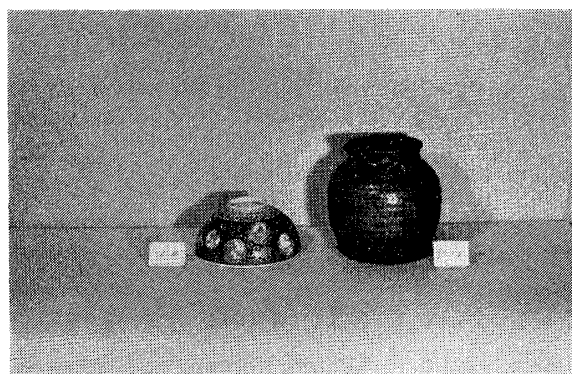


図 3

口径 8 cm, 壺の一番太い所 14.5 cm.
以上が北陸で入手した一式である.

次に昭和51年 8 月に入手した耳盥 2 コについて説明する.

写真 4. この耳盥は, 黒のうるしに唐草蒔絵文一鍍金, 金具付.

写真 5. 絵文なしの黒のうるし塗一鍍金一金具付.

次に昭和51年 7 月に秋田地方で入手した鉄漿つけ道具について説明する.



図 4

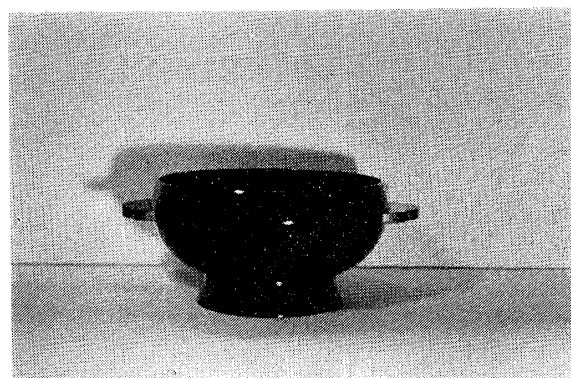


図 5

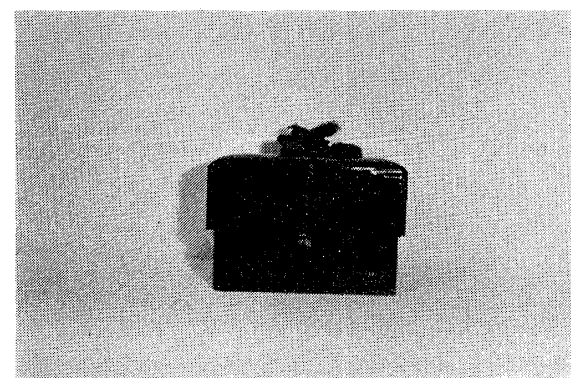


図 6

写真6. 化粧箱, 黒のうるし塗, 紫の紐でゆわえてある. 箱の長さ 24 cm, 幅 17 cm, 高さ 17 cm.

写真7. 耳盥大小, 黒うるし塗無地, 大は直径 15 cm, 高さ 12.5 cm, 小は直径 14 cm, 高さ 9 cm.

写真8. 化粧箱の蓋をとって, 内容をひろげたところ.

内容.

イ. かねわかし真鍮2コ

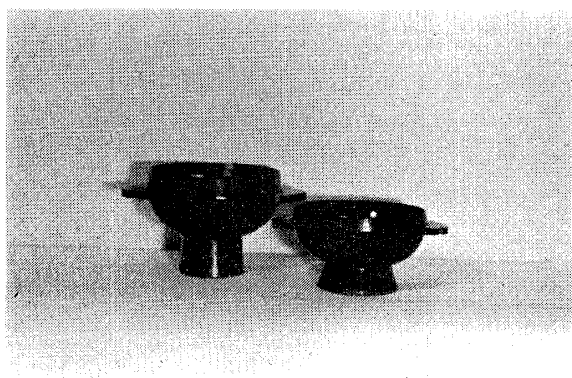


図 7

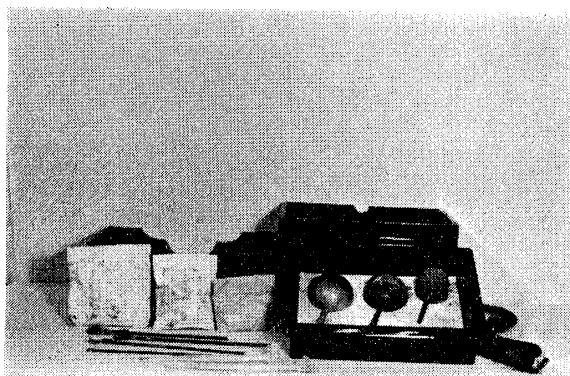


図 8

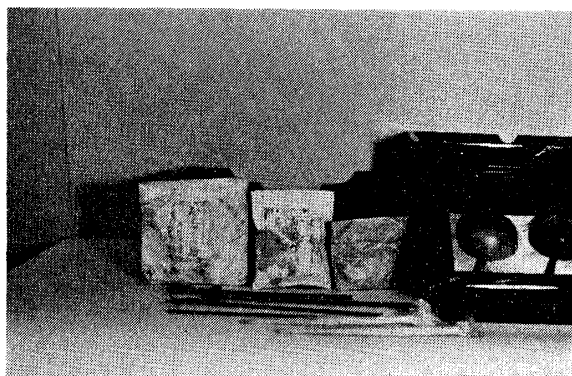


図 9

ロ. かねつけ碗—陶器—すやき

ハ. ふしの粉2袋

ニ. くし(べっこうの無地)

ホ. 房揚子2本

ニ, おはぐろ筆4本—鳥の羽根

写真9. 上記の化粧箱と同一のものであるが, ふしの粉を主体として写したもの.

写真10. 鏡台, 黒のうるし塗, 高さ 32.5 cm, 幅 35 cm, 四段の引出しがあり. 上段の高さ 6 cm, 次の高さ 5 cm, 3段目は高さ 6 cm, 4段目は中央で左右2

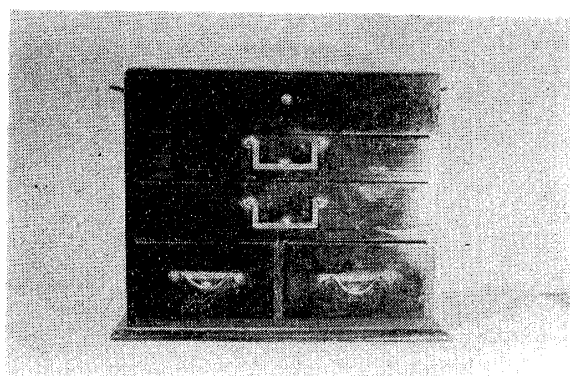


図 10

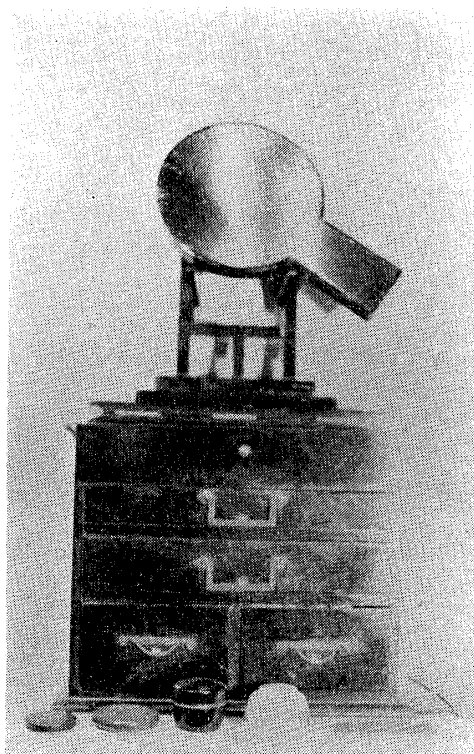


図 11

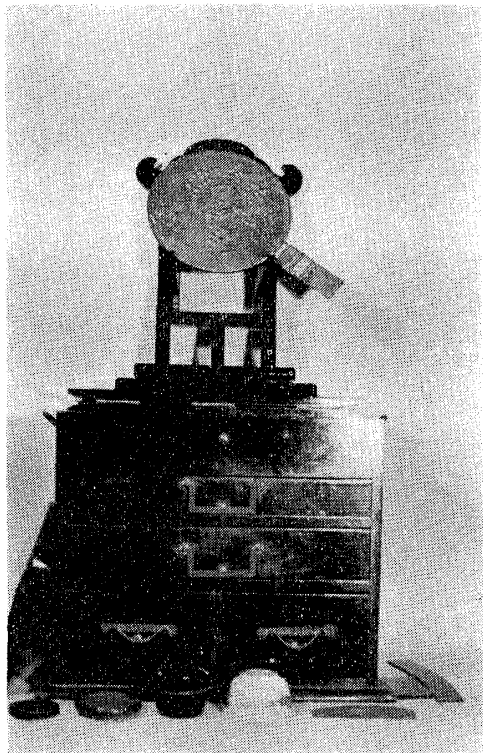


図 12

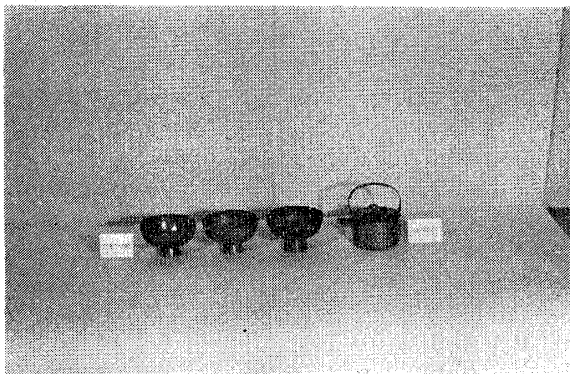


図 13

コになっていて高さ 9 cm である。

写真11. 鏡立てを出して、鏡を箱に入れたまま仕度くしたもの、前面に、

イ. ふしの粉入れ、円形 1 コ高さ 5.5 cm, 直径 5 cm, 蓋のみ 1 コ.

ロ. 化粧もの入れ、平蓋直径 5.5 cm.

ハ. べっこう無地のくし.

ニ. うがい茶碗竜の模様. 直径 7.8 cm, 高

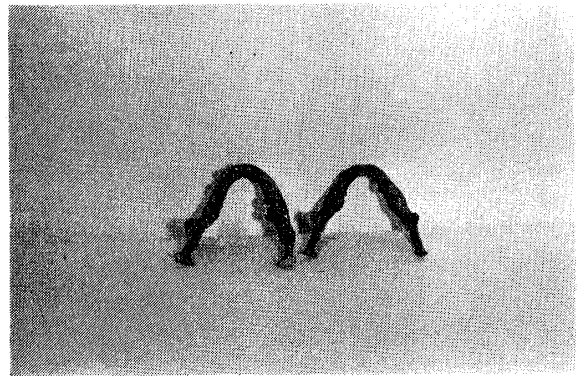


図 14

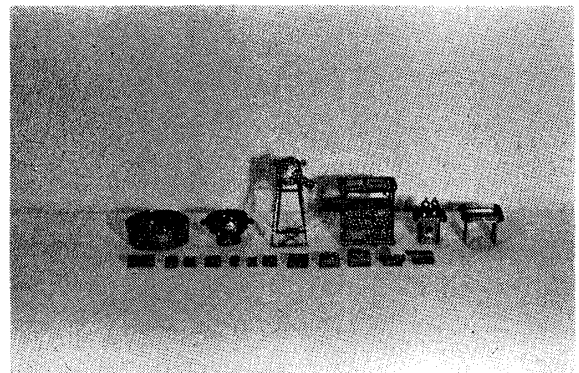


図 15

さ 4.7 cm.

写真12. 同じく上記の鏡立てに箱から出して鏡をかけたところ、鏡は青銅で、直径 17.7 cm, 長さ 26 cm, なお鏡入れは蓋の直径 20 cm, 長さ 31.5 cm, 模様は松に竹と鶴と亀, 作者は中原攝津守光重.

写真13. 次に別に入手した

1. かねわかしー直径 6.5 cm.

2. かねつけ碗ー3 コ.

イ. 高さ 3.5 cm, 直径 7 cm

ロ. 同 3.5 cm, 同 7 cm

ハ. 同 3.5 cm, 同 7.5 cm

写真14. お歯黒をつけた江戸時人の下顎骨 2 コ

写真15. ままごと道具の中の耳盥, 鏡台, ふしの粉入れ.

(昭和51年 9 月例会で発表した)